

東京大学・企業大学訪問感想

今回のオープンキャンパス・訪問では、これから一生をかけても会っていただけないような方々と会うことができ、とても充実した 2 日間でした。このような機会を用意していただいた、先生方や両親、旅行代理店の方、素晴らしいお話を聞かせていただいた笹川平和財団や日本財団、ディレクトフォースの人生の先輩と言える方々、冗談を交えながらも高校生活や自分の体験についてレクチャーして下さった OB・OG の先輩方、外務省で私たちに海外のことを教えていただいた職員の方々、そして私と行動を共にしていただいた班の皆さまの協力に感謝します。本当にありがとうございました。今回伺ったことを通して自分を成長させることができたと思います。

1 日目の午前中は、ディレクトフォースと日本財団・笹川平和財団の方々を講師として、笹川平和財団理事長、田中伸男様から基調講演をしていただきました。田中様は国際エネルギー機関 (International Energy Agency) の前事務局長で、IEA の任務や日本のエネルギー政策のこれからについて様々な興味深いお話を伺うことができ、とても有意義な時間となりました。なかでも関心を持ったことは、EU にあるような地域全体での電力供給の協力計画が日本とアジアの間にもある、ということです。このような地域協力が可能になれば、それだけで紛争の抑止力にもなると考えられますし、災害時に自国の発電所が使えなくなっても他国から電力を輸入することもできます。そのほかにも私が今まで思い当たることの無かった世界の仕組みや国際関係のあり方を知ることができ、私もこのような考え方ができたのならもっと見える世界が広がるのだと感じました。さらに田中様からは国際機関で働くという将来の選択肢を示していただきました。私は世界を舞台に仕事をしたいと思っていたので、国際機関で働くこともいいと思うようになりました。また、海外への留学についてもお話いただき、AIESEC の海外へのインターンシップ等を利用してなども知ることができました。

基調講演の後、ディレクトフォースや日本財団・笹川平和財団の講師の方々と意見交換が行われました。富永夏子様には、自身の、フォトグラファーと言う職業を選んだ経緯を通して、自分の苦手なこと・敬遠してしまうことへも全力で立ち向かっていくことが大切だと教えていただきました。私はつらいこと、嫌なことは避けてしまう傾向があるので少しずつでも直していきたいと考えました。日高様にはハンセン病患者の方へのいまだに続く差別とそれに対する財団の支援についてお話をいただきました。また、自分の興味を持ったもの、面白いと思ったものをするのが大切だと教えていただきました。さらに、異

なった文化を持つ人とは本質的には分かり合えないが、それでも分かり合えるよう努力を続けなければならないとおっしゃっていました。私は異文化の方と交流した経験も無かったため、これから海外の方と接するときの参考になると思いました。長崎??様は海外の方々と交流するときの注意点として、体に触れないこと、相手の目を見て話すことが大切だと教えていただきました。さらに自身の組織への考え方を示され、旧財閥系統の企業などの縛られた組織よりも自由に動ける組織へ所属されたという経緯をお話いただきました。また、将来への計画を立てる為に自分を客観視する・成功から逆算するということを教えていただきました。私は計画を立ててもそれを成し遂げることができないのでとても参考になりました。芙美様には自身がなぜ笹川平和財団で貧困の解消に取り組んでいるのか、またどうすればそれを解決できると考えているかということをお話しいただきました。貧困の解消をどう行うべきか伺え、とても参考になり、私もどうすればよいのか深く考えるきっかけとなりました。村上様には日本がこれから世界で活躍するために何がキーワードとなっていくのか、また世界の中での役割はどうなっていくのか、そして後進国への支援によって日本を豊かにしてゆけるかもしれない、ということをお話いただきました。さらに本を読むことの大切さを教えていただくことができました。田辺様には海外で活躍するために、英語が使える、柔軟な思考ができる、健康である、ということをお話しいただきました。また、英語について、英語はどんな国でも通じる言語であり、英語ができればどの国の人とでもコミュニケーションでき、正しい英語を身に着けることが重要だとおっしゃっていました。柔軟な思考をするためにはいろいろなことを学ぶことが大切で、広い見識を持つと人柄もよくなり知人も増え、可能性が限りなく広がるとおっしゃっていました。また趣味を持つことで上下関係のない人のつながりが作れ、そのようなつながりがいざというとき助けになったりするともお話しいただきました。

1日目の夕食後、二高OB・OGの東大生などの方々にお越しいたゞき座談会という形でお話を聞くことができました。東大法学部の先輩は、科目選択は自分の得意な教科ではなく自分の好きな教科を選ぶとよいということをお話しいただきました。それが何故かもお話しただけなのでとても参考になりました。また主要な英語・数学・国語の受験に向けた学習方法を。更に、文系の勉強とは何なのか、と言うことを根本に還って教えていただけました。改めて考えることによって文系に要求される能力、文系には何ができるのかを知ることができました。また、受験についても端的にアドバイスいただき、受験までの大まかな道筋を立てることもできました。東大農学部の先輩には、部活動はとても大切だと教えていただきました。また特に重要な英語の勉強法をお話しいただきました。一橋大学法学部の先輩は自身の単身世界一周の体験をお話しいただきました。中東アジアやアフリカなどの後進国のこれからのについても教えていただきました。私も世界をこの目で見てみたいと思っているので、どのようにすれば各国の人々と話すことができるのかということをお話しいただき、とても参考になりました。また一橋大学についても教えていただき、少人数の講義であること、OB・OGとのつながりが強く、社会に出て困ったときには助けていただけると言うことを知ることができました。一橋大学は文系

でもトップクラスの大学なので、その先輩からお話を聞くことができ、将来の進路選択のとてもよい参考になりました。

今回の研修では、いままでに考えもしなかった将来の選択や考え方、新たな経験を得ることができました。また準備の段階を含め、アポイントメントを取ることや事前の学習などのこれから社会人になるうえで必要とされることを多く学ぶことができたと考えます。これらのことをこれから活かしていけるように、講師の方や先輩の言葉を頭の片隅に止めて生活していきたいとおもいました。そしてこれから困難にぶつかったときは、その言葉を活かして切り抜けていきたいと思いました。これからこのような機会を提供していただけることは自分から積極的に参加しない限り無いと考えます。そのことを今回の研修を通して深く感じたことであり、この研修を通して最も頭の中に残るものとなりました。